

吉田浜は大畑浜同様、近世以前からその歴史を紡いできました。豊臣秀吉の文禄の役（1592年）で伊達政宗の参謀格の成実隊の船団の水夫や漕ぎ手として地区の人が役割を果たしたと伝わります。江戸時代から明治時代にかけて漁業がますます盛んになり、最盛期の大正時代の初めには50艘を超える船が沿岸漁業に従事しました。

集落内にはせり市が立ち、馬で岡吉田や丸森方面まで運んで販売しました。その後、動力船による漁法の変化に対応できなかったことや、砂地に合う野菜や果樹の栽培が盛んになったことにより、次第に農業に力を入れるようになりました。また明治の中頃から大火が続き、新しく開墾された土地に移住する二男、三男が多くなり野地集落となりました。

スケッチは、吉田浜の避難丘から西方の海蔵寺と神明社、その奥の四方山方面です。農業の発展に貢献した森義衛門堀と、震災前には元朝参りで回ったという移設された山の神などの古碑群、野地集落センター脇にある真柳善四郎墾田碑です。わが家の先祖も吉田浜出身と聞き、思いが膨らみました。

郷土わたり7号「旧吉田村海岸地方の部落の成立と変遷(一)」をもとにしました。

(絵と文 佐々木寛)



吉田地区交流センター



4月の人事異動で吉田地区交流センター所長に着任いたしました、木村昌徳と申します。

地域の皆さんとのふれあいを大切にし、楽しいイベントや交流を行い、心温まる交流センターを目指してまいります。よろしくお願いいたします。

浜吉田駅前駐在所



初めまして。今年の4月から浜吉田駅前駐在所に勤務しております石川正太と申します。各ご家庭に巡回連絡で何う事もありますので、地域の安全に繋がるご意見、ご要望など是非お聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

編集長のつばやき

新年度に入りました。子どもの頃は新しい教科書、新しい先生、新しい友だち、ドキドキワクワクの毎日でした。4月から6月の時期は、地域の様々な団体が総会を開きます。そこでは前年の活動を評価し、今年の計画について話し合います。私たちまち協でも総会が開かれました。今年も地域の皆さまの生活を豊かにする一助となるよう「安全・元気・健康」の3つの部会それぞれに計画を練っています。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。鳴り砂だよりでは、そうした活動の一端を紹介しています。読者の皆様のお声をお待ちしています（佐々木）

次回は令和7年9月1日発行予定です

鳴り砂だより

吉田東部地区まちづくり協議会

広報誌 No.55



発行日 令和7年6月1日
編集 吉田東部地区まちづくり協議会
住所 巨理町吉田字大塚185
電話 0223-36-8831
FAX 0223-36-8832
E-mail wa.tukuri.yt@ia9.itkeeper.ne.jp
発行責任者 福本 眞

～ 令和7年度 総会 ～

4月18日(金) 令和7年度の総会は、巨理町長山田周伸さまをはじめ、来賓の方々をお迎えし、代議員・部会員22名（委任状含む）出席のもと予定通り開催されました。7年度事業計画など全議案承認されました。



総会の様子

令和7年度 会長挨拶



会長 福本 眞

日頃より、吉田東部地区まちづくり協議会活動につきまして、多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

これまで、当協議会が築いてきた様々な「コミュニティづくり活動」は東部地区の皆様のお声を大切にし、取り組んで参りました。

令和7年度も、新しい企画やアイデアを積極的に取り込み「安全・元気・健康」の3部会が力を合わせ「たのしかった～」「ためになった！」と喜ばれるよう努力いたします。

「コミュニティづくり活動」の輪は地域住民の皆様のご理解と積極的な参加がなければ広がりません。部会員一同、心より参加をお待ちしております。

今年度もこれまで以上のご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

令和7年度 役員・部会員紹介

役職	氏名	行政区	部会長	鈴木 義男	浜吉田西	
役員	会長	福本 眞	浜吉田北	副部会長	佐々木ひろみ	開墾場
	副会長	三品 正明	新丁	部会員	若林 正美	浜吉田西
		大堀 由美子	浜吉田北		鈴木ヨシ子	浜吉田東
	会計・書記	田辺 直正	浜吉田東		高倉 進	一本松
			村橋 すす子		開墾場	
安全部会	部会長	丸子 常代	長瀬 浜	部会長	田代 宗夫	浜吉田北
	副部会長	星 春美	浜吉田北		副部会長	星野 隆一
	部会員	赤間 勉	一本松	部会員	大堀 康博	浜吉田東
		石井 里子	浜吉田西		佐々木 寛	開墾場
		清野 久美	浜吉田西		渡辺 宏	浜吉田西
		菅原 秀紀	長瀬 浜		丸子 吉雄	長瀬 浜
		伊藤 節子	新丁		東 聖史	浜吉田東



～防災豆知識～ 「集中豪雨と線状降水帯」

気候変動の影響とされていますが、近年の雨の降り方には異常さを感じます。被害を伴う大雨を豪雨と言います。気象庁の用語では、豪雨は著しい災害が発生した顕著な大雨現象を言います。そして、同じような場所で数時間にわたり強く降り、100 mmから数百mmの雨量をもたらす雨を集中豪雨と言っています。雨量が多くなるのは、継続時間よりは強い降り方で、1時間に20 mm以上の雨量になります。このような雨を降らすためには、多くの水蒸気の供給と積乱雲のような厚い雨雲が必要です。集中豪雨は積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより起き、重大な土砂災害や家屋浸水等の災害を引き起こします。

最近、大雨報道の中に線状降水帯という用語が頻りに使われています。線状降水帯は3時間降水量が100 mm以上の分布面積が500 km²以上あり、その形状が線状（長軸と短軸の比が2.5以上）のものを言います。線状降水帯の代表的な発生メカニズムは図1のようなものです。台風や熱帯低気圧、前線などで大量の湿った空気（水蒸気）が流入する（図中①）ことが特徴です。湿った空気は発達した雲（積乱雲）を作ります。積乱雲は風で流されますが、水蒸気の流入が多いので風上では次々と新たな積乱雲が発生し、積乱雲の列ができます。こうして線状に分布する強い雨の帯ができます。

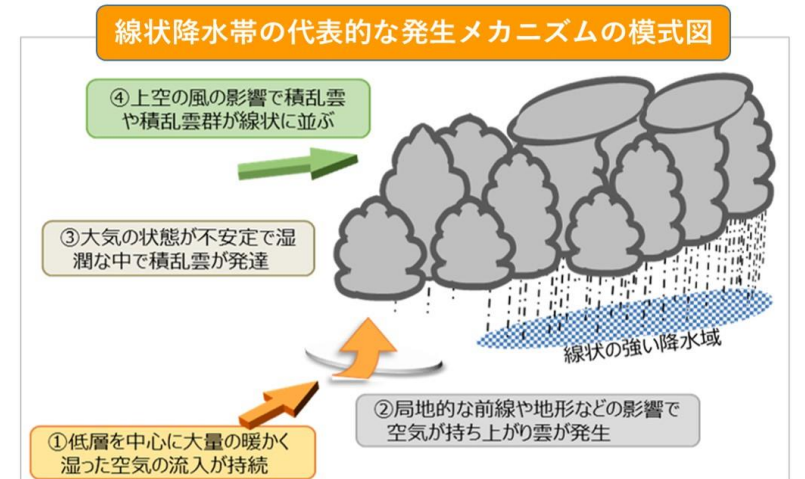


図1 線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図

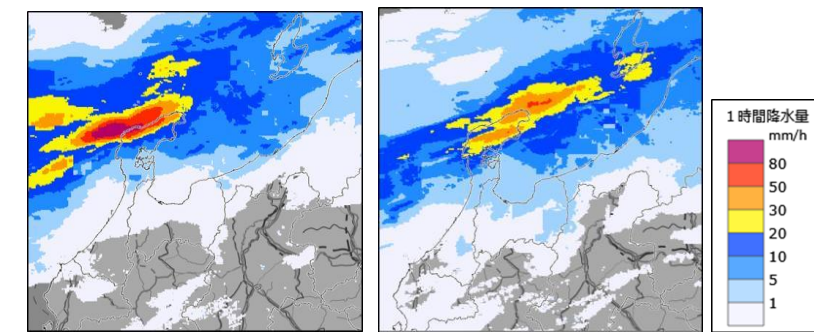


図2 9月21日9時(左)と同12時(右)の降水量分布

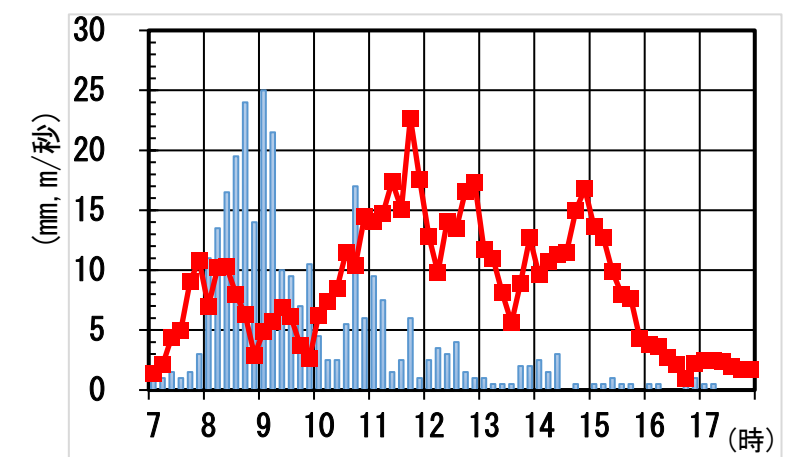


図3 輪島の21日の10分間降水量(青)と最大瞬間風速(赤)の変化

図・説明とグラフは、気象庁HPにある解説・報告やデータを使用しました。

令和7年度 年間事業予定

安全部会

- 4月15日(火) 春の交通安全啓発活動
- 5月10日(土) 普通救命講習会
- 9月: 秋の交通安全啓発活動

- 10月18日(土) 防災教室
- 11月: いじめ防止キャンペーン
- 2月 7日(土) 防犯教室
- 随時: 通学路ストップマーク 点検・補修



元気部会

- 6月 5日(木) いちごジャム作り
- 6月21日(土) 吉田浜海岸清掃
- 9月 6日(土) 吉田浜海岸清掃

- 10月17日(金) 料理教室～はらこ飯作り～
- 11月: ワークショップ
- 12月 6日(土) しめ縄づくり体験教室
- 1月24日(土) 新春おたのしみ演芸会
- 2月: 料理教室～ほっき飯作り～



健康部会

- 5月17日(土) 長瀬小学校運動会支援
- 6月 1日(土) 田んぼみち歩くべ駅伝
- 9月27日(土) ふれあい健康まつり

- 11月 8日(土) 健康講座
- 3月14日(土) ふれあいスポーツ広場



※都合により日程が変更になる場合があります